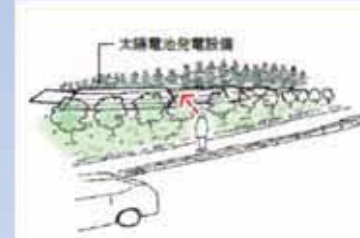


1. 全区域共通の景観形成基準

①建築物及び工作物の建設等

周辺景観との調和に配慮した位置・配置、
太陽光発電施設設置に係る緑化修景など



②屋外広告物の表示、掲出

位置や配置、周辺景観となじむ色彩など

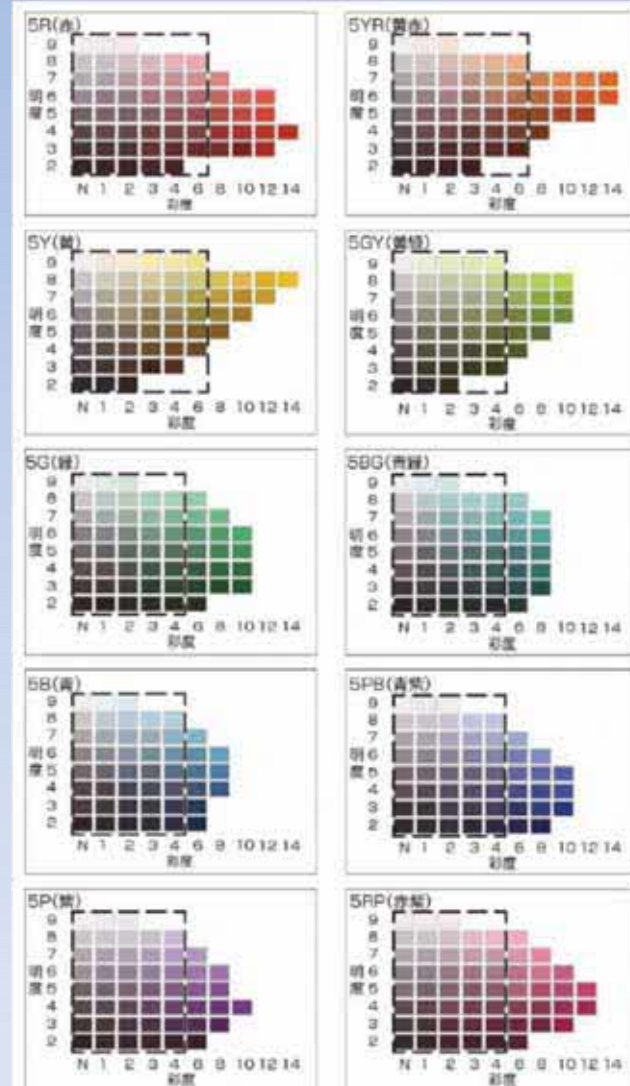
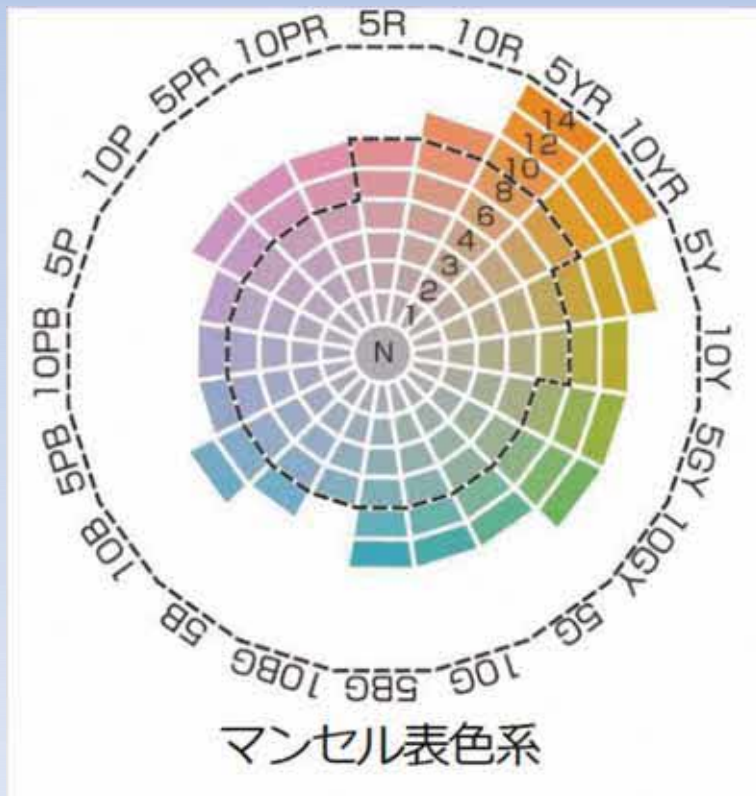
③開発行為、土砂の採取等

地形を活かした造成や緑化など

2. 全区域共通の色彩基準

基調となる部分に使用できる色彩の範囲

色相	彩度	明度
R (赤) ■ 、YR (黄赤) ■	8以下	0~10
Y (黄)系 ■	6以下	
上記以外その他 ■ ■ ■ ■	4以下	



景観形成のルール（8つの景観形成基準）

自然
環境特性

農村
環境特性

暮らし・交
流拠点
特性

協働の景
観まちづく
り特性

- ①開陽台周辺区域
- ②空港周辺区域
- ③国道272号バイパス沿いの区域
- ④中標津市街地中心区域
- ⑤中央通・大通り沿いの区域
- ⑥中標津市街地区域
- ⑦計根別市街地及びその他集落区域
- ⑧自然・農村景観区域

8つの景観形成基準

①開陽台周辺区域



地球が丸く見える開陽台の景勝地としての価値を高める景観形成

②空港周辺区域



道東地域の空の玄関口として豊かな農村環境を印象付ける景観形成

8つの景観形成基準

③国道272号バイパス沿いの区域 ④中標津市街地中心区域



まちと農村を結び緑の連続性を感じさせる沿道の景観形成



まちの拠点として「もてなし」「にぎわい」「新たな交流」を生み出す景観形成

8つの景観形成基準

⑤ 中央通・大通沿いの区域



まちなかの「にぎわい」と豊かな自然環境を感じさせ農村環境を予感させる沿道の景観形成

⑥ 中標津市街地区域



自然環境と農村環境が調和し、潤いと安らぎを感じさせる住み心地のよい市街地景観形成

8つの景観形成基準

⑦計根別市街地及びその他集落区域



各集落の歴史文化を継承し、地域の風土と調和する集落市街地の景観形成

⑧自然・農村景観区域



まちの発展を支え中標津を象徴する自然環境、農村環境を守る景観形成

2

基本理念

歴史、文化、産業との融和、 自然との共生による景観まちづくり

～中標津町の風土に調和した良好な景観を守り、つくり、育てる～

1

景観特性

自然環境特性

農村環境特性

暮らし・
交流拠点特性

協働の景観ま
ちづくり特性

3

基本方針

1. 空と緑の広がりのある自然景観を守ります

2. 格子状防風林のある農村景観を守ります

3. 歴史と文化、産業を感じる景観を守り、
育て、交流とにぎわいを創出します

4. 協働による景観まちづくりを進めます

4

景観特性ごとの景観まちづくり方針

共通事項 >> 風土に調和した良好な景観形成を図ります

①周囲の環境との調和

②良好な眺望に配慮

③景観への意識と理解の醸成

景観まちづくりの考え方（過程）



中標津町が大事にする景観まちづくり推進方策の3つのポイント

(1) 景観に対する町民意識の醸成と関心の向上

(2) 町民・活動団体・事業者等の持続的な景観まちづくり活動の促進

(3) 景観計画と既存制度等を活用した景観まちづくり活動の支援

(1) 景観に対する町民意識の醸成と関心の向上

- ・啓発活動の推進
- ・景観形成、景観まちづくりに関する**情報発信**
- ・**子ども達**や**若い世代**などを対象とした**景観学習**の推進
- ・中標津町**表彰条例の活用**と意識啓発の推進



(2)町民・活動団体・事業者等の持続的な景観まちづくり活動の促進

- 景観形成団体・景観活動団体や町民相互の**話し合いの場や機会**の創出
- **自主的な景観まちづくり**活動の促進
- **各区域**に応じた**協働の景観まちづくり活動**の促進
- **景観重要建造物、景観重要樹木、景観重要公共施設の指定**を検討する組織の設置
- 景観計画と連動した**景観重要公共施設の整備**又は**運用**

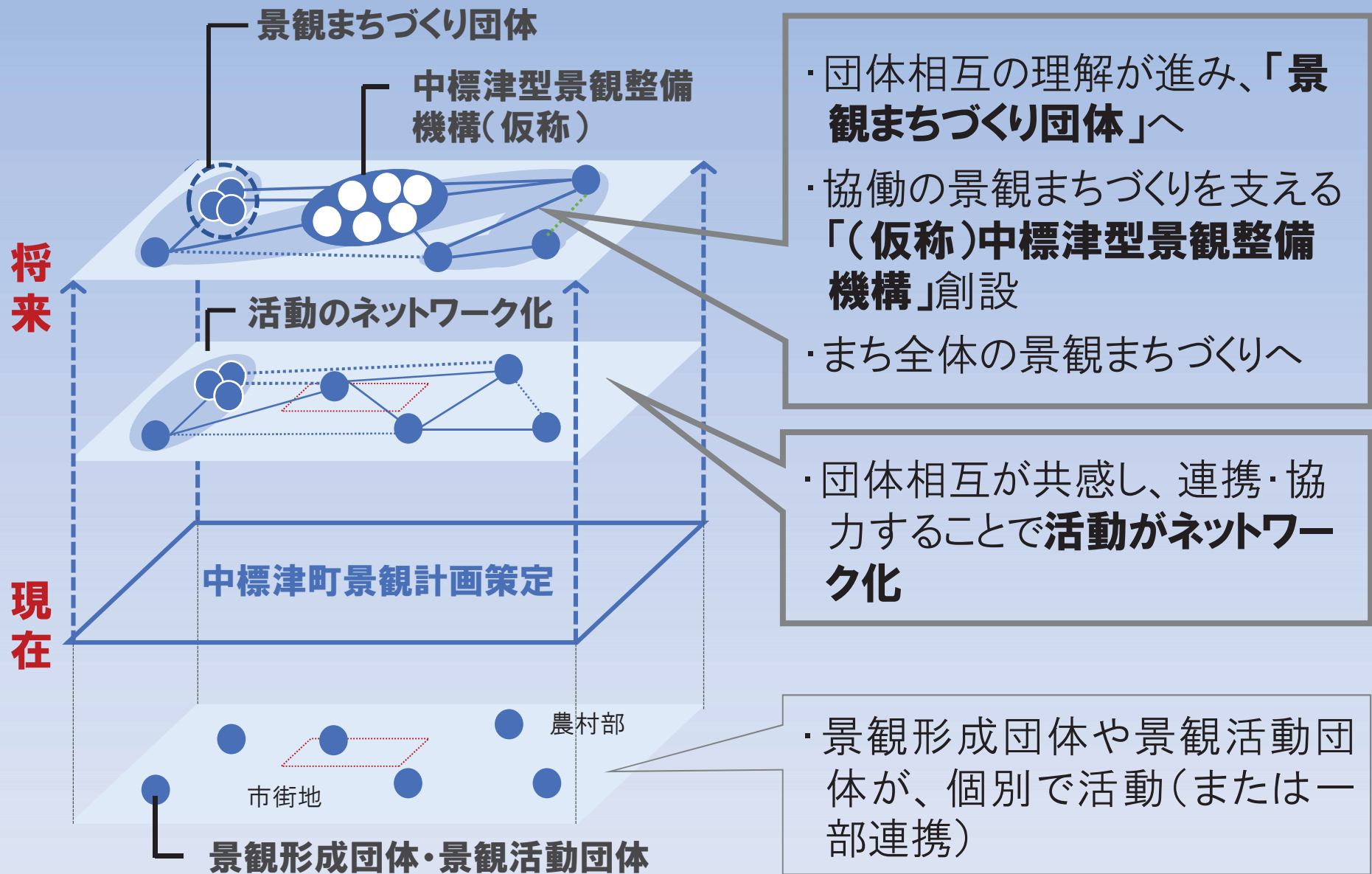


(3) 景観計画と既存制度を活用した景観まちづくり活動の支援

- ・景観まちづくりに関わる**既存制度**及び**支援制度の活用**
- ・**景観条例**の効果的な運用
- ・**景観審議会**の効果的な運用



景観まちづくりを進める仕組みづくりの考え方



『協働』の景観まちづくりを実践する「景観まちづくり団体」

互いに**手を組む**ことで、
「景観まちづくり団体」が形成



景観形成団体、 景観活動団体

- ・ 既存活動の範囲拡大
- ・ 各種サポート活動
- ・ 地域との連携先導 など

各種産業従事者による 団体

各種公益事業者による 団体

- ・ 技術やノウハウの支援
- ・ 活動場所等の提供
- ・ 資金的支援 など

協働の景観まちづくりの**第一歩**を創出

景観まちづくり団体の設立と発展

景観形成団体
景観活動団体
の交流

団体相互の
考えや想いの
共有

マネージャー
(つなぎ役)による、
つながり

連携した活動の
実践と継続

活動の
ネットワーク化

景観まちづくり
団体の設立

① 交流の機会、参加から団体のつながりへ



② 個人や団体をつなぐマネージャー (つなぎ役)



③ 連携した活動の実践をつうじて活動のネットワーク化へ



(仮称)中標津型景観整備機構のイメージ

初期
段階

各種景観まちづくりの支援
景観形成の調整・管理等

- ・中標津町農業協同組合
- ・計根別農業協同組合
- ・中標津町森林組合
- ・一般社団法人なかしべつ観光協会
- ・一般社団法人北海道建築士会中標津支部
- ・中標津町商工会
- ・中標津町緑化管理組合
- ・中標津町建設業協会

(仮称)中標津型景観整備機構の事業例

- ・景観整備、景観形成
- ・景観まちづくり活動の支援
- ・景観まちづくりに関する相談窓口
- ・景観まちづくりの担い手を育てる人材育成

各種景観まちづくりの支援
景観形成の調整・管理等

- ・中標津飲食業連合会
- ・一般社団法人中標津青年会議所
- ・中標津町町内会連合会/公益社団法人中標津町シルバー人材センター
- ・中標津町老人クラブ連合会
- ・株式会社中標津都市施設管理センター
- ・中標津ライオンズクラブ、中標津ロータリークラブ
- ・民間企業等の事業者

支援
相談

支援
町民/各種NPO等活動団体
相談各街づくり協議会

指
定

協
働

支
援

中標津町(景観行政団体)

景観整備機構指定要領の検討

協働の景観まちづくり

今後の町内の景観まちづくりの担い手として、景観まちづくりについての検討や活動を町民に情報発信し、さらなる担い手の発掘や町全体の景観まちづくりに対する意識の醸成を図る組織として町民有志による「**みんなのなかしべつプロジェクト**」を発足！



ワークショップ
フォーラム

交流

学習会

人材育成

景観整備
機構



<https://www.facebook.com/nakashibetsu.keikan/>

協働の景観まちづくり「みんなのなかしべっプロジェクト」

平成29年度(2017年) 活動スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
活動内容	WS	WS		WS	WS	WS		WS	
			沿道景観調査		景観学習				色探しWS フォーラム

平成30年度(2018年) 活動スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
活動内容	WS	WS	WS			WS				WS
		道外視察		地域聞き取り		沿道景観調査	かぼちゃランタン 景観学習	フォーラム		
					景観整備機構 学習会					

平成31年度/令和元年度(2019年) 活動スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
活動内容		WS	WS	WS							フォーラム
						任意団体 設立					
						かぼちゃランタン					
					景観整備機構 学習会		景観学習				

みんなかプロジェクト(沿道景観調査)

防風林や号線道路などの「なかしべつらしい景観」を守りつつ、携帯電話基地局やソーラパネルなど「暮らしに必要なもの」を必要な場所に、けれどできるだけ景観を損なわないように共存していくための資料として活用するため実施しました。



観光資源としての
農業景観



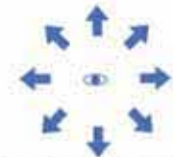
生活や経済活動に
必要な行為

調査・分析

「中標津らしい景観」と
「暮らしに必要なもの」の両立を目指す



- 【撮影する道路】
- ・○○線(号)、延長約○○kmです。
 - ・基本的な撮影箇所は○○箇所です。
 - ・撮影は約540mごとをお願いします。およそ号線道路に一致します。
 - ・大きな撮影位置は別図を参照してください。
- 【撮影にあたって】
- ・1箇所につき、8カットの撮影をお願いします。
 - ・道路の通行方向に向かってまっすぐで、その反対向き。
 - ・道路の通行方向に向かって、左右直内方向。
 - ・上記4カットに対して、間の45度方向。
 - ・写真の重なり代を十分にとってください。
 - ・開路から曲を見た2.8倍のように、起伏のある谷地帯の写真は、谷底の方がアングルに入らない場合があります。この場合は、なるべくカメラを左右に振らないで、補足の写真を撮ってください。



みんなかプロジェクト(景観学習)

中標津町の景観に対する理解とふるさとへの愛着を育むため、自然を利用し、残しつつ人の手が作り出した景観の成り立ちを児童に伝える。



格子状防風林と河畔林の違いや防風効果など、座学と3D地図と呼ぶ模型づくりを通して、中標津の農業地域の歴史と環境を45分の授業時間で学びます。

みんなかプロジェクト(なかしべつの色さがし)

中標津の景観の魅力を発見するきっかけづくりのため、中標津らしい色を探
すまち歩きを夏と冬で実施 (講師:北海道カラーデザイン研究室 外崎由香氏)



・まちなかで見ると派手に見える色でも、幼稚園などの公共施設であれば許容できる。

・色だけでなく、使われている材質によっても印象が変わってくるように感じた。

・彩度の高い色の看板も多くあったが、商店街では賑やかで明るい印象を受けた。

・花壇の花などは彩度が高いが、きれいに見えるのは、面積が小さいからかもしれない。 など

みんなかプロジェクト(景観整備機構等道外視察)

道外の景観整備機構として活躍されている団体や行政のお話を伺い、体制づくりの検討に活かす

NPO法人京都景観フォーラム



京都市・まちづくりセンター



宇治市（歴史的建物とまちなみ）



伊豆市（修善寺地区の取り組み）

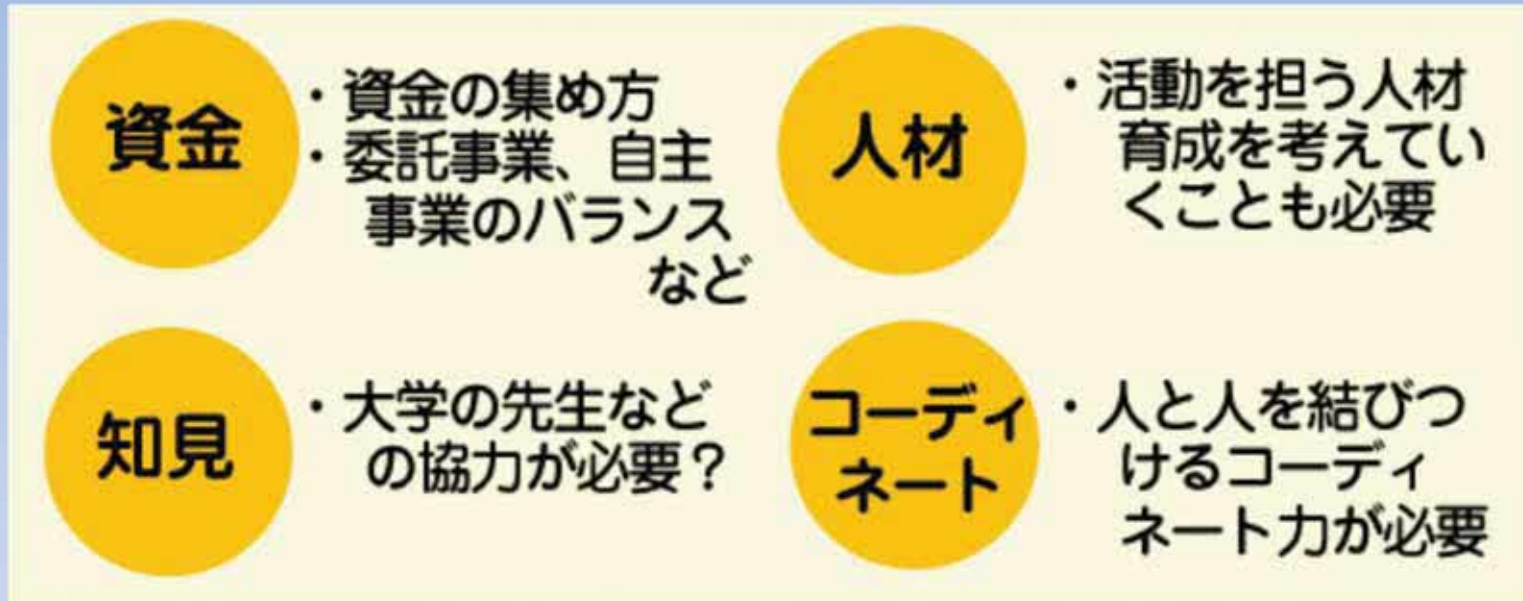


練馬区みどりのまちづくりセンター



みんなかプロジェクト(景観整備機構道外視察)

5団体への視察から、景観整備機構を考えていくときのポイントが見えてきました。



【視察報告を受け出した意見】

- ・農業、林業、観光、商業など様々な団体や町民個人が協力していく必要がある。
- ・他都市の事例を中標津でそのまま実行するのは難しい点もある。
- ・景観重点地区の取組みや町民への意識啓発活動など、他都市でも面白い活動があり参考にしたい。



みんなかプロジェクト(計根別魅力聞き取り調査)

計根別地区の歴史を知る地域の高齢者に、当時の様子や生活、印象深かったことなどについて、中標津農業高校生徒が実施しました。

伊藤 春子さん(93)



- ・山梨県出身
- ・昭和21年に戦後入植
- ・山梨と気候が違い作物が育たない
- ・食料配給(黒っぼい米)
- ・昭和39年まで電気がなくランプ生活

百瀬 栄子さん(92)



- ・釧路管内音別町出身
- ・昭和11年に10歳で引っ越し
- ・両親は食堂を経営
- ・木製の冷蔵庫
- ・集乳所からもらった牛乳でアイスクリームを作る
- ・冬の暮らしの大変さ
- ・学校給食

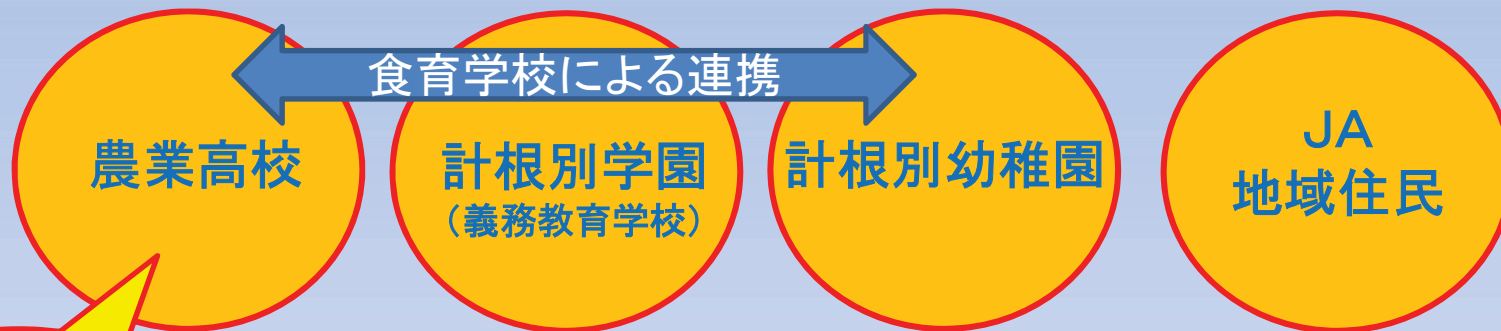
聞き取りを終えて【高校生の感想】

- ・ジブリの世界のようなお話(笑)
- ・今の計根別の風景は、当時の人たちが生活する中で創りあげた結果である
- ・新たな計根別の担い手として意欲や自身につながった

みんなかプロジェクト(かぼちゃランタン)

計根別地区の将来イメージの検討と子供たちとの協働を実現する取組を検討

- ・次世代を担う子供たちの“ふるさと意思”を育てる
- ・楽しい交流によって明るい地域をつくる
- ・さまざまな団体が活動し、協働し合える環境をつくる



北海道教育大学
釧路校

農業高校でかぼちゃを栽培することができそう

×

単発イベントではなく計根別の景観まちづくりや子供たちの人材育成に活かされるストーリーが必要

【実行委員会】

- ・畑をどこにするか
- ・かぼちゃの種類と量
- ・全体スケジュール



みんなかプロジェクト(かぼちゃランタン)

①事前学習(小4)



②播種(幼+小+高)



③定植(幼+小+高)



⑤収穫(幼+小+高)



④除草(幼+小+高)



みんなかプロジェクト(かぼちゃランタン)

⑤加工(地域住民)



⑥飾り付け



⑦まちあるき



飾り付けの様子

みんななかプロジェクト(景観整備機構学習会)

「なかしべつ型景観整備機構」の設立にむけて、静岡県景観整備機構として実践的な取組を行っている静岡県建築士会副代表 塩見寛氏による学習会を開催

- よい景観が人をつくる。風景が心をつくる。
- 景観はなかなか市民に浸透しない
- 景観とは「生活」そのものとする発想
- 景観は市民のレベル以下にも以上にもならない



●景観整備機構がめざす3つのこと

地域密着

景観責任

仕事循環

●景観整備機構に課せられた3つのこと

社会性

責任性

持続性



・景観整備機構には様々なメンバー(分野)が必要
 ・なかしべつ型は一つの団体だけではない
 ・具体的な組織化を考えていく段階にきている？
 ・リーダー、サポーターなど

↓

もうできる段階にきているのでは??

みんなかプロジェクト(公民学連携のまちづくり勉強会)

町民による活動を軸にした協働の景観まちづくりを推進するため、東京都練馬区みどりのまちづくりセンターでの活動経験があり、福井県坂井市アーバンデザインセンターで活動されている、東京都市大学 中島伸 准教授より、まち全体の資源を活かしたまちづくりについて学びました。

テーマ: 景観まちづくりを多様な主体が連携して進めるために考えたいこと



「まちづくりに関心のない人たちにとって、まちづくりをやっているひとはどう映るか？」

→「好きでやっている(だけの)人たちに見えがち」
…をどうやって超えていくか??



目的: 景観まちづくりをすると地域が改善される
手段: 地域改善のために景観まちづくりをおこなう



目的と手段を円環させよう!



みんなかプロジェクト(任意団体の設立)

2017年に策定した中標津町景観計画は「町民」「活動団体」「事業者」「行政」の協働体制をイメージして、景観まちづくり活動を経て「守り・つくり・育てる」ことを具体的に示し、景観法に明記されている景観整備機構という地域の景観形成の担い手となる団体を想定した「みんなのなかしべつプロジェクト」活動が、2019年9月に任意団体として設立しました。



景観調査
部会

昭和初期の
開拓景観保
存活用部会

なかしべつ
の色部会

景観学習
部会

かぼちゃ
ランタン
部会

中標津町の景観まちづくり 意識の変化

これまでの中標津町の景観活動は、開陽台からの眺望や、格子状防風林など、自然に関わる郊外の農業景観に着目し活動が続けた結果、皆が守るべき景観であるということ、営農する農家を含め町民や行政、事業者の共通認識が醸成してきた。



【適切な営農】

中標津町の景観の多くが産業による「酪農景観」であることを意識



【行政間の連携】

景観に配慮した道道の防雪柵の収納箇所

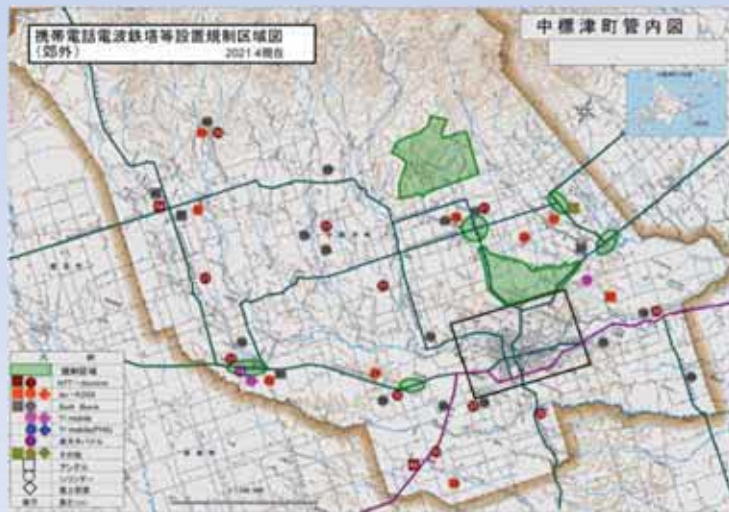
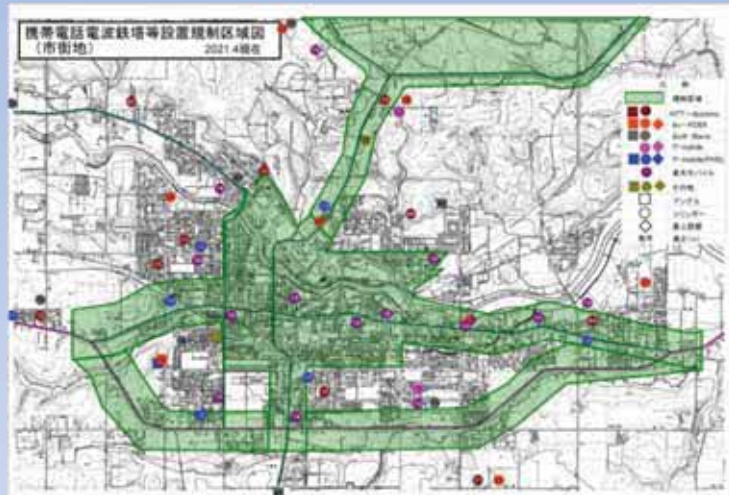


【事業者の理解】

アンテナ工事の際、グレーのシートで養生することで景観に配慮

中標津町の景観まちづくり 景観形成基準の見直し

政府が推進するSociety5.0を支える5Gなどの情報通信基盤整備を見据え、これまで設置禁止地区において景観に配慮した上で、高さ15m未満の基地局の設置を可とした。(令和2年度景観審議会)



電柱
H=12m



5G基地局
H=14.9m

今後に向けた景観形成基準の見直し

2050年カーボンニュートラル宣言に伴い、脱炭素に向けた取り組みが加速する。再生可能エネルギー需要が高まり「太陽光発電」建設が推進される可能性。



現在の景観形成基準、届出基準で問題ないのか？

現在の届出基準： $A > 2,000\text{m}^2$ または $H > 5.0\text{m}$

景観形成基準：公共空間から容易に望見できないよう配慮した位置・配置とし、植栽等の修景に努めること。

敷地面積1ha超は、道路より2m以上セットバックし、植栽による修景をすること。 など

ここ数年はメガソーラー建設が下火となり、雑種地や森林など隙間を狙った小規模発電施設建設など、届出基準以下のパネル設置が増加していることや改正温対法(R3.5.26)の内容を踏まえ、何らかの施策を打つべきでは？



現在、中標津町景観審議会において検討中

中標津町の景観まちづくり 景観形成基準の見直し

【太陽光パネルが嫌われる理由】

経済優先で、設置後どうなるかは気にしていないものが多く見受けられる。



太陽光発電事業者は人々の暮らしを担うエネルギーが、設置されるこの地に住む人々の生活の調和について、再生可能エネルギーが悪者にならないよう、地域との共生を図る視点で配慮(デザイン)してほしい。

道徳なき経済は犯罪であり
経済なき道徳は寝言である

二宮尊徳

中標津町の景観まちづくり これからの課題

市街地の景観に目を向けると、これまで人々の日々の生活や生業の蓄積によってできた「まちなみ」が中標津の景観としてどうあるべきかということまちのみなさんと考えていきたい。



暮らしと直結する市街地
景観をどう考えるか...

わたしたちが住むまちの成り立ちを学び、このまちの何を
まもるべきかを理解すること。そして暮らしと景観のバラン
スについて住民と対話することによって、目的と目標を明
確化し「景観まちづくり」を共有することが大切。

町長



H30.6かぼちゃランタン事業

ご清聴ありがとうございました